

度の早期実現を期待」, 「土木工学科の卒業生は公務員として国土計画に参画することも多く, 広い視野の基盤を学生時代に養っておくことが必要である。また, 実際工事にたずさわる場合も気象条件に仕事が左右されることも多く, 現在カリキュラムに気象学が組み入れられていないのは不思議としか言い様がない」, 「航海という立場で考えると, 総観的な知識・情報だけでは不十分なスケールの問題があり, メソスケール・ミクロスケールの現象も安全にかかわる」, 「環境気象としての微気象・微気候を, とくに農業との関係において取扱う。また, 気象観測および観測結果のデータ取扱いについて習得させる」

8. おわりに

本稿では, 気象教育の問題点を示して, 更にその上の議論の呼び水にしたい, との考えから, 必要以上にまとまった結論を得ようとしなかった。読者各位が現状を理解された上で, 更にレベルの高い議論を展開されることを期待したい。優れた議論がいくつか出た所で, 気象研究ノートにまとめたい。

アンケートの取扱いについては, 自由に気軽にお書き下さったものを実名入りで紹介するのは問題もあろうかと考えて, 印刷物以外はお名前を省略させて頂いた。今後の計画についての御意見をお待ちしたい。

参考文献

- 会田 勝, 1972: 教育系大学・新制大学における気象学の発展, 天気, 19, 628-629.
 駒林 誠, 1971: 大学と大学院と気象大学校の気象教育, 天気, 18, 183-189.
 佐橋 謙, 1973: 小学校における気象教材について, 岡山大学教育学部研究集録, No. 36, 33-40.
 高橋喜彦, 1971: 高等学校地学の学習指導要領の変遷, 天気, 18, 179-182.
 竹内丑雄, 1967: 小学校における気象教育, (1) 気温について, 天気, 14, 151-155.
 —, 1968: 同上, (2) 風・湿度・雨・雲について, 天気, 15, 391-395.
 —, 1970: 同上, (3) 低学年指導について, 天気, 17, 69-73.
 —, 1971: 小・中学校の気象教育, 天気, 18, 175-178.

会員の広場

「史蹟と雪道」

11月24日の朝, まぶしい日ざしの下で雪が降っていた。雲が流されてきて雪が降るといふ状態は東北では珍らしくもない現象だが東京近辺ではまず見られない現象と思う。この雪雲が流される所を仮に雪道と呼ぶと, 衛星の雲写真に顕著に現われる雪道は東北では津軽海峡や仙台市付近であるが, 岩手県でも比較的明らかなのは湯田・北上・住田町を結ぶものである。有名な中尊寺のある平泉は雪道からそれた所にあり堅穴住居時代の当時としては吹き抜ける風と雪を防ぐには恰好の土地だったと思われる。

ところで筆者の宿舎がある多賀城市に多賀城跡という中尊寺に匹敵する史蹟があるが, 東北以外には案内知られていないのではあるまいか。多賀城跡とは奈良時代前半に築城され, 陸奥(この時は福島と山形・宮城の南部を含む領域で藤原氏三代当時より狭い)の国府と出羽の

国も含めて管轄する鎮守府の置かれた城跡で, 九州の太宰府と対比できるいわば律令国家の前線本部であった。たとえば東北地方の気象官署を管轄する仙台管区気象台のような存在である。そして, 中央から派遣される当時の国司は絶大な権力を持ち好きな処を選択できたはずである。にも拘わらず, 「現在それ程特色もない多賀城という所をなぜ選んだのか」という不思議な思いが浮かぶ。そこで, やはり雪道を選けたのではあるまいかと思ふ。地勢を見ると, 西北西方向は丘陵→北泉ヶ岳→船形山という山塊がつらなり, まさに雪道をそれる所になる。隣に塩釜の港を控えるという好条件があったにしても, 素朴な生活をした当時としてはそれなりに自然への対策を考えていたのではないかと想像される。

仙台管区気象台 佐藤和敏